

いばらきネットモニター

医療機関の受診に関する新型コロナウイルス感染症による影響に係るアンケート結果

1 調査目的

医療機関の受診に関する新型コロナウイルス感染症による影響について、県民等の状況を調査・分析し、今後の適切な医療機関の受診に係る広報活動に活用するために実施しました。

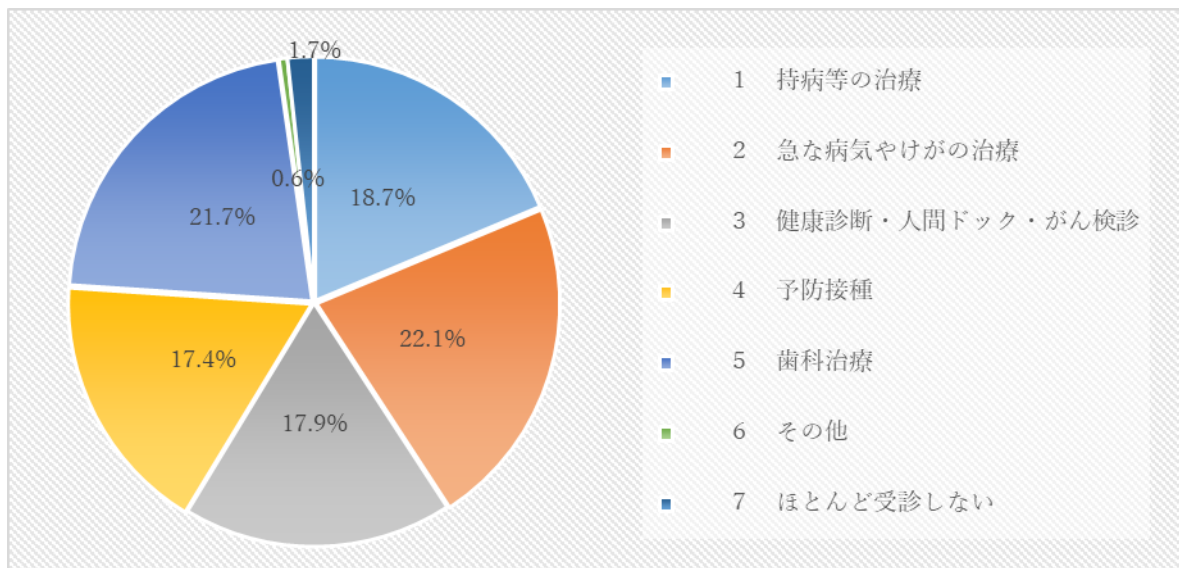
2 結果の概要

- ・回答者中、おおよそ4人に1人が、「コロナ禍において受診頻度が減った」としている。
- ・減った理由の上位は、「医療機関での感染を避けた」、次いで「感染対策として外出を控えた」、「診察方法等の制限による」、「不要不急の外出制限に従った」の順。
- ・コロナ禍で医療機関を受診する頻度が減った人に関して、コロナの5類移行後の受診頻度は、「コロナ禍で減ったまま変わらない」(36.0%)、「コロナ禍前に戻った」(21.7%)、「頻度は増えたがコロナ禍前よりは少ない」(18.5%)、「減った」(13.8%)、「コロナ禍前より増えた」(9.0%)。
- ・医療機関の情報を取得する媒体としては、「医療機関のホームページ等」が最も支持(36.8%)され、次いで「自治体ホームページ等」(28.2%)、「新聞・情報誌の公告」(9.8%)となった。

【問1】(医療機関の受診の目的)

医療機関を受診する目的は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n=769)



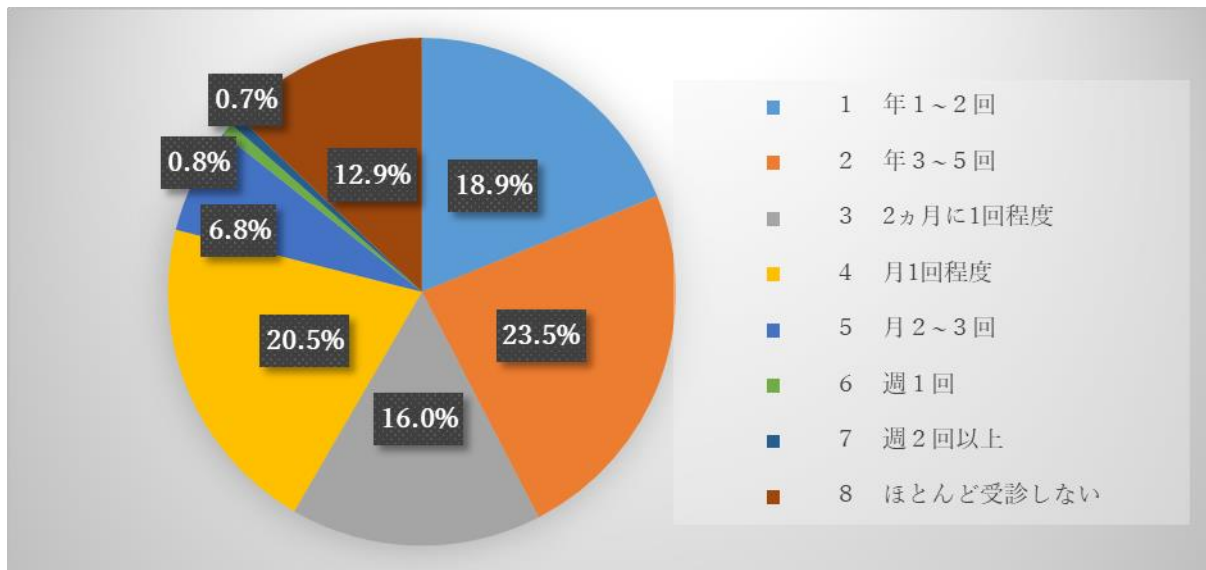
○「急な病やけがの治療」(22.1%)が最も多く、次いで「歯科治療」(21.7%)、「持病等の治療」(18.7%)、「健康診断等」(17.9%)、「予防接種」(17.4%)となった。

上記回答割合は、地域別、性別、年代別等に見ても、傾向に大きな差異はなかった。

【問2】（コロナ禍前の医療機関の受診頻度）

新型コロナウイルス感染症が蔓延する前（新型コロナウイルス感染症にかかる初の緊急事態宣言（令和2年4月7日）以前）、どのくらいの頻度で医療機関を受診していましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n = 769)



○「年3～5回」が23.5%と最も多く、次いで「月1回（年2回）程度」（20.5%）、「年1～2回」（18.9%）、「2か月に1回程度」（16.0%）、「ほとんど受診しない」（12.9%）の順となる。

○月に複数回受診する人は、全体の8.3%であった。

（月2～3回（6.8%）、週1回（0.8%）、週2回以上（0.7%））

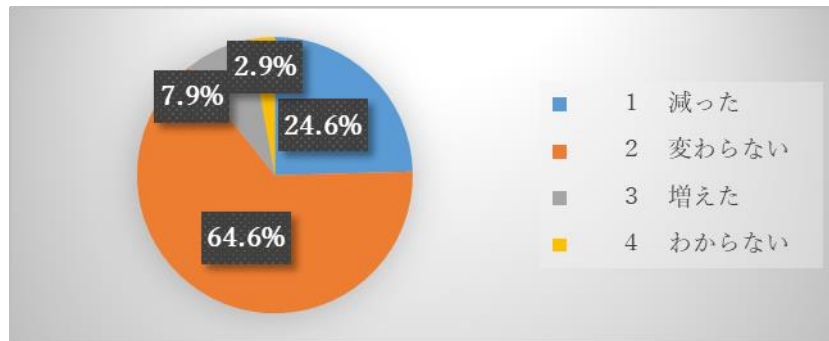
○上記回答割合は、地域別、性別、年代別等に見ても、傾向に大きな差異はなかった。

【問3】（コロナ禍における受診頻度の変化）

コロナ禍において、医療機関を受診する頻度が増えたり、減ったりしましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

※本アンケートでは、「コロナ禍」について、新型コロナウイルス感染症にかかる初の緊急事態宣言のあった R2.4.7 から同感染症が5類に移行した R5.5.8 までの間としている。

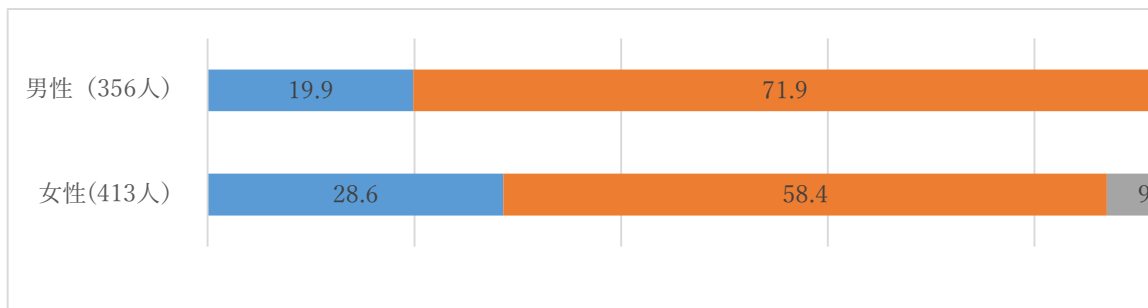
(n = 769)



○コロナ禍における受診回数は、

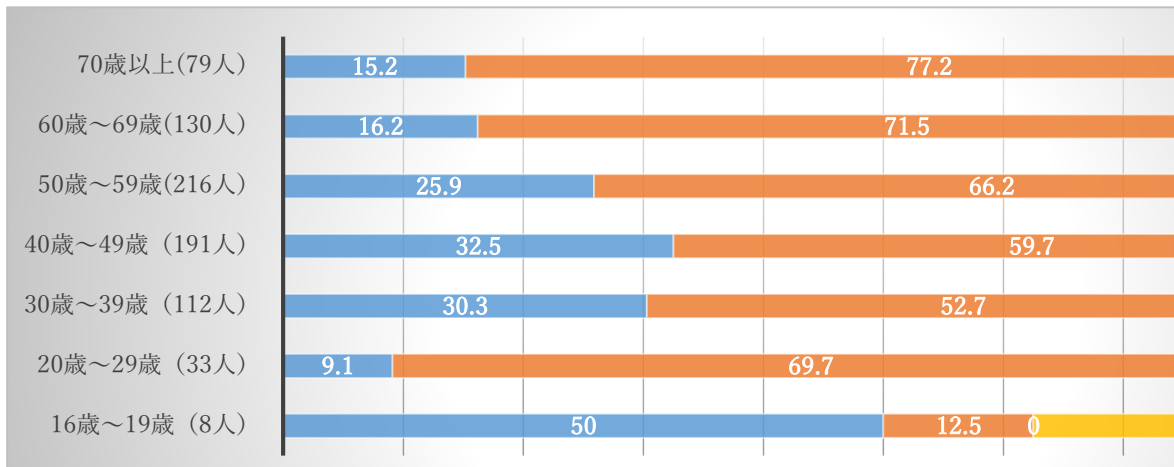
「変わらない」が64.6%、「減った」が24.6%、「増えた」が7.9%、「わからない」が2.9%であった。

[性別の傾向]



○男性（回答者 356 人）は「変わらない」71.9%、「減った」19.9%、「増えた」6.7%、女性（回答者 413 人）は「変わらない」58.4%、「減った」28.6%、「増えた」9.0%となっており、コロナ禍における受診頻度の変化は、女性に比較的顕著に見られた。

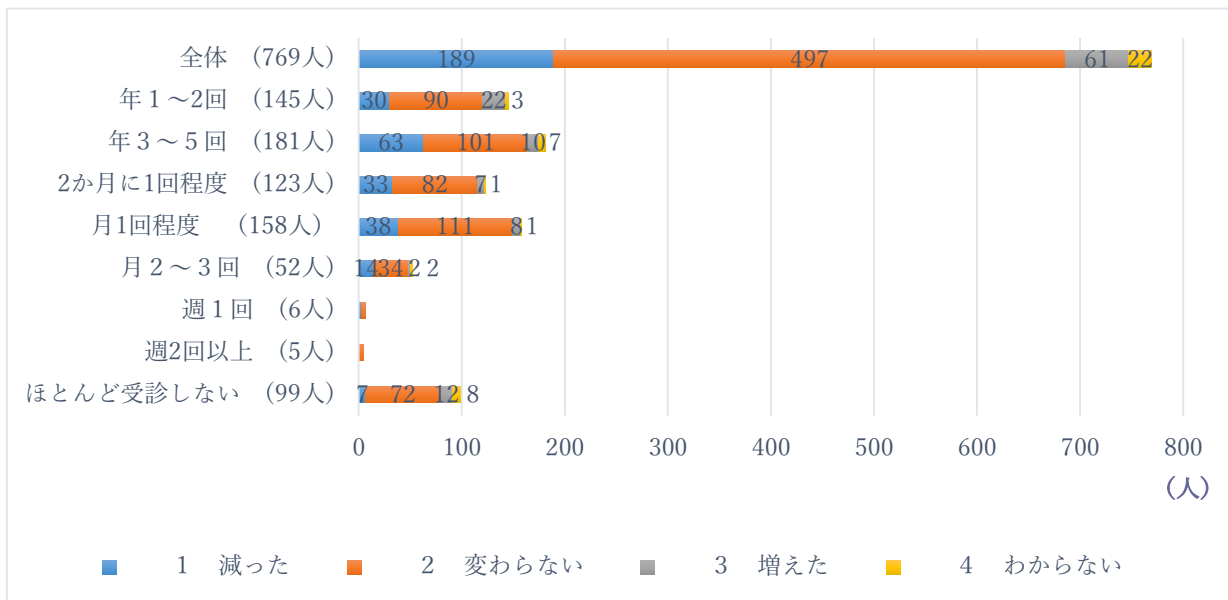
[年代別の傾向]



○30、40代の回答における「減った」とする割合が比較的高く、高齢になるにつれ、「変わらない」とする割合が高くなる傾向がみられた。

[コロナ禍前の受診頻度別]

(n=769)



○「減った」と答えた人は全体で189人で、そのうち最も多いのは、コロナ禍前、「年3～5回」の頻度で受診していた層（63人、41.2%）であり、次いで「月に1回程度」（38人、20.1%）、「2か月に1回程度」（33人、17.5%）であった。

○「変わらない」と答えた人は全体で497人で、そのうち最も多いのは、コロナ禍前、「月に1回程度」の頻度で受診していた層（111人、22.3%）であり、次いで「年3～5回」（101人、20.3%）、「年1～2回」（90人、18.1%）であった。

○「増えた」と答えた人は全体で61人で、そのうち最も多いのは、コロナ禍前、「年1～2回」の頻度で受診していた層（22人、36.1%）で、次いで「ほとんど受診しない」（12人、19.7%）、「年3～5回」（10人、16.4%）であった。

○なお、コロナ禍前、月に複数回受診していた層の内訳は次のとおりである。

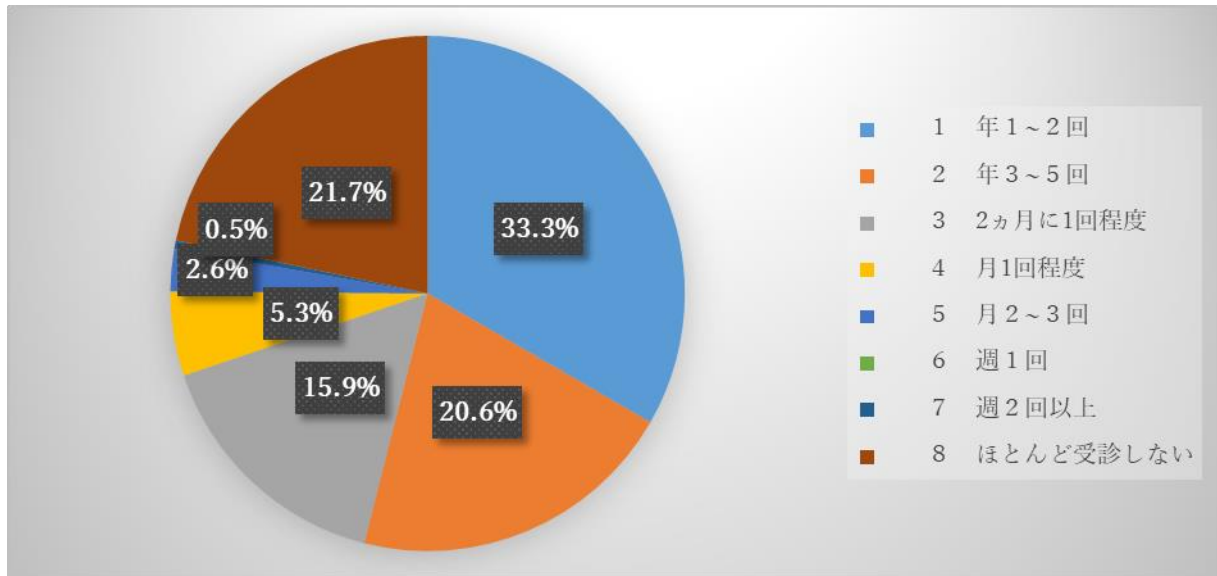
- 週2回以上（5人）：減った（1人）、変わらない（4人）、増えた（0人）、わからない（0人）
- 週1回（6人）：減った（3人）、変わらない（3人）、増えた（0人）、わからない（0人）
- 月2～3回（52人）：減った（14人）、変わらない（34人）、増えた（2人）、わからない（2人）

【問4】（コロナ禍の受診状況）

（問3で1「減った」と回答した方のみ回答）

コロナ禍においてどのくらいの頻度で医療機関を受診していましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=189)



○「コロナ禍において受診頻度が減った」とした回答した人について、

コロナ禍中の受診頻度別で、最も多かったのが「年1~2回」(33.3%)で、次いで「ほとんど受診しない」(21.7%)、「年3~5回」(20.6%)、「2か月に1回(年2回)程度」(15.9%)となった。

なお、月に複数回受診する人の割合は、全体の3.2%（「月2~3回」(2.6%)、「週1回」(回答者なし)、「週2回以上」(0.5%)）である。

○本説明の回答傾向に性別の差異は見られない。

【問5】（コロナ禍において受診頻度が減った理由）

（問3で1「減った」と回答した方のみ回答）

コロナ禍において、医療機関を受診する頻度が減った理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n = 189)

	回答数	1 診察時間・方法などが制限されて 受診しづらくなった	2 診察時間・方法などが制限されて 受診できなくなった	3 感染症対策として外出を控えた	4 感染症対策のため医療機関を避けた	5 感染症対策のため、家族等による送迎・ 付添などの支援が得られにくくなった	6 不要不急の外出が制限された	7 その他	8 特にない
全体	421	77 (18.3%)	34 (8.1%)	106 (25.2%)	131 (31.1%)	4 (1.0%)	49 (11.6%)	19 (4.5%)	1 (0.2%)
男性	154	23 (14.9%)	12 (7.8%)	42 (27.3%)	52 (33.8%)	0 (0.0%)	16 (10.4%)	8 (5.2%)	1 (0.6%)
女性	267	54 (20.2%)	22 (8.2%)	64 (24.0%)	79 (29.6%)	4 (1.5%)	33 (12.4%)	11 (4.1%)	0 (0.0%)

○最も多い理由は「感染症対策として医療機関を避けたため」(31.1%)であり、次いで「感染症対策として外出を控えたため」(25.2%)、「診察時間・方法などが制限されて受診しづらくなったため」(18.3%)であった。

○「その他」として、次のような理由があげられた。

- ・マスクをつけて生活することになり、風邪や持病の呼吸器系疾患にかかりにくくなったため。
- ・薬の処方期間が30日（1か月分）から60日（2か月分）に伸びたため。
- ・医療機関が推進する電話での受診を利用したため。

【問6】（コロナ禍において受診頻度が減ったことによる影響）

（問3で1「減った」と回答した方のみ回答）

医療機関を受診する頻度が減った結果どのような影響がありましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n = 189)

		回答数	1 症状が悪化した	2 治療が長引いた	3 遅れた 疾病等の把握及び治療が	4 後遺症が残った	5 購入費が増えた 治療に必要な市販薬等の	6 精神的苦痛に見舞われた	7 その他	8 特に影響はなかった
全体		237	23 (9.7%)	17 (7.2%)	25 (10.5%)	0	53 (22.4%)	21 (8.9%)	11 (4.6%)	87 (36.7%)
性別	男性	85	7 (8.2%)	6 (7.1%)	7 (8.2%)	0	17 (20.0%)	4 (4.7%)	7 (8.2%)	37 (43.5%)
	女性	152	16 (10.5%)	11 (7.2%)	18 (11.8%)	0	36 (23.7%)	17 (11.2%)	4 (2.6%)	50 (32.9%)

○特に影響はなかったとする回答（87人、36.7%）が最も多かったものの、デメリットを挙げる意見が次のとおり相当数（139件、全体の58.6%）見られた。

- ・治療に必要な市販薬等の購入費が増えた 53人（22.4%）
- ・疾病等の把握及び治療が遅れた 25人（10.5%）
- ・症状が悪化した 23人（9.7%）
- ・精神的苦痛に見舞われた 21人（8.9%）
- ・治療が長引いた 17人（7.2%）

○「その他」として次のような意見が見られた。

- ・継続が必要な治療を終了した。
- ・健康診断の結果に基づき精密検査を予約したが、医療機関の都合でキャンセルされた。
- ・経過観察をやめた。
- ・医師との意思疎通が少なくなった。
- ・予防歯科を受けなくなり、歯石の付着が増えた。
- ・今までより通いやすい病院に転院した。

【問7】（新型コロナウイルス感染症の5類への移行後の受診について）

（問3で1「減った」と回答した方のみ回答）

新型コロナウイルス感染症の5類移行（令和5年5月8日）後、医療機関をどのくらいの頻度で受診していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n = 189)

		回答数	1 増えた コロナ禍前よりも	2 受診頻度 コロナ禍前と同程度の 戻った	3 受診頻度は コロナ前よりは 少ないが、 頻度は増えた	4 変わらない	5 減った	6 わからない
全体		189	17 (9.0%)	41 (21.7%)	35 (18.5%)	68 (36.0%)	26 (13.8%)	2 (1.1%)
性別	男性	71	7 (9.9%)	17 (23.9%)	11 (15.5%)	24 (33.8%)	12 (16.9%)	0
	女性	118	10 (8.5%)	24 (20.3%)	24 (20.3%)	44 (37.3%)	14 (11.9%)	2 (1.7%)

○コロナ禍において受診頻度が減ったままで「変わらない」という人が最も多く68名(36.0%)次いで、「コロナ禍前と同程度の受診頻度に戻った」(41人、21.7%)、「受診頻度は増えたがコロナ前よりは受診頻度は少ない」(35人、18.5%)の順となった。

【問8】（受診に関する意欲）

（問3で1「減った」と回答した方のみ回答）

今後の医療機関への受診頻度に関して、どのようにお考えですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n = 189)

		回答数	1 より多く 受診したい	2 現状の受診 頻度に 満足している	3 より少ない 頻度で 受診したい	4 わからない
全体		189	25 (13.2%)	99 (52.4%)	51 (27.0%)	14 (7.4%)
性別	男性	71	13 (18.3%)	35 (49.3%)	22 (31.0%)	1 (1.4%)
	女性	118	12 (10.2%)	64 (54.2%)	29 (24.6%)	13 (11.0%)

○回答された方の過半数(52.4%)が、「現状の受診頻度に満足している」であった。

なお、「より多く受診したい」と考える人は25人(13.2%)で、「より少ない受診頻度で受診したい」とする人(51人、27.0%)の半数程度となっている。

【問9】（医療機関からの情報の入手方法）

医療機関が広報する情報提供媒体で、日常的に閲覧しているものはありますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n=769)

		回答数	1 医療機関のHP・ メルマガ	2 新聞・情報誌の 広告	3 電車内の広告	4 インターネット 広告	5 自治体HP・発行 紙	6 ツイッターなど SNS	7 その他	8 特 に な い	
全体		1115	299 (26.8%)	114 (10.2%)	16 (1.4%)	78 (7.0%)	222 (19.9%)	69 (6.2%)	15 (1.3%)	302 (27.1%)	
性別	男性	539	125 (23.2%)	59 (10.9%)	9 (1.7%)	47 (8.7%)	118 (21.9%)	30 (5.6%)	8 (1.5%)	143 (26.5%)	
	女性	576	174 (30.2%)	55 (9.5%)	7 (1.2%)	31 (5.4%)	104 (18.1%)	39 (6.8%)	7 (1.2%)	159 (27.6%)	
年代別	16～19歳	13	4 (30.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	0	3 (23.1%)	
	20～29歳	45	7 (15.6%)	3 (6.7%)	3 (6.7%)	3 (6.7%)	8 (17.8%)	4 (8.9%)	2 (4.4%)	15 (33.3%)	
	30～39歳	164	40 (24.4%)	7 (4.3%)	4 (2.4%)	14 (8.5%)	25 (15.2%)	19 (11.6%)	3 (1.8%)	52 (31.7%)	
	40～49歳	263	80 (30.4%)	25 (9.5%)	2 (0.8%)	17 (6.5%)	46 (17.5%)	18 (6.8%)	3 (1.1%)	72 (27.4%)	
	50～59歳	325	89 (27.4%)	38 (11.7%)	5 (1.5%)	21 (6.5%)	67 (20.6%)	16 (4.9%)	4 (1.2%)	85 (26.2%)	
	60～69歳	184	53 (28.8%)	19 (10.3%)	1 (0.5%)	13 (7.1%)	38 (20.7%)	8 (4.3%)	2 (1.1%)	50 (27.2%)	
	70歳以上	121	26 (21.5%)	21 (17.4%)	0	9 (7.4%)	36 (29.8%)	3 (2.5%)	1 (0.8%)	25 (20.7%)	
性別×年代別	男性	16～19歳	2	1 (50.0%)	0	0	0	1 (50.5%)	0	0	0
		20～29歳	21	3 (14.3%)	2 (9.5%)	1 (4.7%)	0	4 (19.0%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	6 (28.6%)
		30～39歳	66	6 (9.1%)	4 (6.1%)	4 (6.1%)	12 (18.2%)	12 (18.2%)	8 (12.1%)	0	20 (30.3%)
		40～49歳	94	25 (26.6%)	7 (7.5%)	1 (1.1%)	7 (7.5%)	19 (20.2%)	7 (7.5%)	1 (1.1%)	27 (28.7%)
		50～59歳	152	39 (25.6%)	17 (11.1%)	3 (2.0%)	10 (6.6%)	31 (20.4%)	5 (3.3%)	3 (2.0%)	44 (28.9%)
		60～69歳	100	29 (29.0%)	11 (11.0%)	0	9 (9.0%)	19 (19.0%)	4 (4.0%)	2 (2.0%)	26 (26.0%)
		70歳以上	104	22 (21.2%)	18 (17.3%)	0	9 (8.7%)	32 (30.8%)	3 (2.9%)	0	20 (19.2%)
	女性	16～19歳	11	3 (23.3%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0	3 (27.3%)
		20～29歳	24	4 (16.7%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	3 (12.5%)	4 (16.7%)	1 (4.2%)	0	9 (37.5%)
		30～39歳	98	34 (34.7%)	3 (3.1%)	0	2 (2.0%)	13 (13.3%)	11 (11.2%)	3 (3.1%)	32 (32.7%)
		40～49歳	169	55 (32.5%)	18 (10.6%)	1 (0.6%)	10 (5.9%)	27 (16.0%)	11 (65.1%)	2 (1.2%)	45 (26.6%)
		50～59歳	173	50 (28.9%)	21 (12.1%)	2 (1.2%)	11 (6.4%)	36 (20.8%)	11 (6.4%)	1 (0.6%)	41 (23.7%)
		60～69歳	84	24 (28.6%)	8 (9.5%)	1 (1.2%)	4 (4.7%)	19 (22.6%)	4 (4.7%)	0	24 (28.6%)
		70歳以上	17	4 (23.5%)	3 (17.6%)	0	0	4 (23.5%)	0	1 (5.9%)	5 (29.4%)

- 総じて最も多かったのが、「医療機関のホームページ・メルマガ」(26.8%)で、次いで「自治体ホームページ・発行紙」(19.9%)、「新聞・情報誌の広告」(10.2%)となった。
- ただし、70歳以上では、「自治体ホームページ・発行紙」が最も選択された媒体（男性30.8%、女性23.5%）であった。
- また、「新聞・情報誌の広告」については、年齢が高い層ほど選択される傾向が高かった。（40歳代9.5%、50歳代11.7%、60歳代10.3%、70歳代17.4%）

【問10】（適当だと思う医療機関の広報媒体）

医療機関に関する情報を取得する際、どのような広報媒体が適当だ（あるいは充実してほしい）と思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n=769)

		回答数	1 医療機関のホームページ・メルマガ	2 新聞・情報誌の広告	3 電車内の広告	4 インターネット広告	5 自治体ホームページ・発行紙	6 ツイッターなどSNS	7 その他	8 特にない
全体		1445	532 (36.8%)	143 (9.8%)	39 (2.7%)	123 (8.5%)	407 (28.2%)	129 (8.9%)	24 (1.7%)	48 (3.3%)
性別	男性	686	237 (34.5%)	72 (10.5%)	24 (3.5%)	67 (9.8%)	196 (28.6%)	53 (7.7%)	13 (1.9%)	24 (3.5%)
	女性	759	295 (38.9%)	71 (9.4%)	15 (2.0%)	56 (7.4%)	211 (27.8%)	76 (10.0%)	11 (1.4%)	24 (3.2%)

- 総じて最も多かったのが、「医療機関のホームページ・メルマガ」(36.8%)で、次いで「自治体ホームページ・発行紙」(28.2%)、「新聞・情報誌の広告」(9.8%)となった。
- 問9で確認した日常的に閲覧している広告の上位から3位がそのまま選択された。ただし、1位「医療機関のホームページ・メルマガ」と2位「自治体ホームページ・発行紙」の占める割合は、問9よりも高くなっている。

【問 11】（自由記述）

コロナ禍又は現在における医療機関への受診について、自由にご意見をお聞かせください（250字以内）。

- ・ 臨時休診や予防接種業の時間帯について電話で問い合わせるしか、正確な情報が得られない。
- ・ もっと手軽に受診できる医療機関が増えたら良いと思う。
- ・ 発熱や風邪症状で受診するのを躊躇してしまう。未だコロナウイルス感染に不安を感じているかも知れない。
- ・ 現在でも発熱があった場合の受診方法がよくわからない。かなり制限されている。
- ・ 以前はコロナは恐ろしかったが、5類に移行してからは比較的安心して受診できると思う。
- ・ オンライン診療が登場してきているが、個人的には対面の安心感は優ると思う。オンライン化していくもの、対面で残していくもの、分別が大切かなと感じている。
- ・ 予約しても混雑していて待ち時間の長い医療機関にはあまり行きたくない。待ち時間が長くても、診察予定時間が明確になっていて一度外にでてよい医療機関は安心感がある。
- ・ 現実的に、5類移行後も風邪症状での医療機関へのかかりづらさは変わっていないように感じる。

など350件のご意見がありました。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・ 県民が、感染症のまん延等の状況においても適切に医療機関を受診するよう、自治体ホームページや発行紙等を活用した広報の充実化を図る。
- ・ また、医療機関の広報媒体として最も支持されている医療機関ホームページやメルマガ等については、適時・適切な広告が行われるよう、医療監視等により指導を行う。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年6月19日（月）から7月2日（日）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,294名

回収率：59.4%（回収数769名）

回答者の属性：以下の通り。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		769	100.0
地域別	県北	63	8.2
	県央	231	30.0
	鹿行	41	5.3
	県南	233	30.3
	県西	59	7.7
	県外	142	18.5
性別	男性	356	46.3
	女性	413	53.7
年齢別	16～19歳	8	1.0
	20～29歳	33	4.3
	30～39歳	112	14.6
	40～49歳	191	24.8
	50～59歳	216	28.1
	60～69歳	130	16.9
	70歳以上	79	10.3
職業別	自営業	65	8.5
	会社員	288	37.5
	団体職員	31	4.0
	公務員	31	4.0
	主婦・主夫	172	22.4
	学生	15	2.0
	無職	91	11.8
	その他	76	9.9

(2) 担当課

茨城県保健医療部保健政策課（医療指導グループ）

電話：029-301-6203

E-mail：koso2@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。